

【 茨城県教育研修センターメールマガジン 】「きたやま通信」

Vol.27 [2025.2.13]

【 茨城県教育研修センターメールマガジン 】「きたやま通信」 Vol.27 [2025.2.13]

※本メルマガ「きたやま通信」の配信を個人で希望される方は、こちらの 二次元 コード(もしくは URL) から、メールを受信できるアドレスの登録をお願いします。

また、本メルマガを多くのお知り合いの方々にご紹介いただければ幸いです。

[URL] <https://forms.gle/UGNXEb9q5ysYwGBG8>



※ いつも当メールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。

ぜひ、本メールマガジンに対しまして皆様からのご意見ご要望をお寄せください。「こんな情報がほしい!」「もっと深く掘り下げてほしい!」

「もっとこうだったらいいのに」など、皆様からの声を心よりお待ちしております!

次の二次元コード・URL よりお願いいたします

[URL] <https://forms.gle/6Paz2r3FJimxz5kb8>



■ I 研修室点描

◇1 新規採用教員[3年次]研修講座(特別支援学校) 第2日

◇2 高等学校等マネジメント研修講座 第7日

◇3 持続可能な社会を創る!SDGs研修講座 第2日

◇4 教育相談(上級)研修講座 第3日

■2 実践家の魅力に迫る! ~アクティブラーナーにインタビュー

■3 センター事業のご案内

▼ I Online Ed Café

■4 推挽録(編集に寄せて) 教科教育課 主査 佐藤 知光

■Ⅰ 研修室点描

◇Ⅰ 新規採用教員〔3年次〕研修講座（特別支援学校） 第2日

【期日】令和7年1月24日（金）

【人数】70人

【内容】

<発表・研究協議>「指導と評価の一体化を目指した授業改善」

【参加者の声】

○学習評価について一年間の研究を通して、障害の程度が重い児童生徒については、より多角的な視点からの実態把握や教科学習の下支えとなる自立活動での学びの困難さの改善克服が重要となると改めて感じる事ができた。これからも特別支援教育において重要な自立活動の指導を、より充実させていきたい。

○新規採用研修3年間の集大成として、多くの学びがあり、これからの基盤となっていく研修にすることができた。これらを今後の学校生活に生かしていくのも自分次第だと思うので、研修で学んだことを無駄にしないようにしていきたい。

【特別支援教育課より】

本講座は、課題対応力の育成を目指し、授業改善の中でも特に学習評価に視点をあてて各学校で授業研究を実施しました。当日の発表・研究協議では、3年次の先生方がそれぞれの授業研究を通して、学びのプロセスに着目しながら授業改善の工夫点について成果と課題を共有しました。授業の良し悪しは児童生徒の学びの姿につながります。先生方は、児童生徒の学びの姿から授業改善につながる気づきを得られたようです。どのような指導や手立てから児童生徒の目指す姿を実現できるのか、今後も指導意図を明確に持ちながら授業実践を重ね、授業力を磨いていけることを期待しています。

◇2 高等学校等マネジメント研修講座 第7日

【期日】令和6年12月11日（水）

【人数】20人

【内容】

<研究発表>「『私』を主語にして考えた学校の未来」

<講話>「リーダーとして更なる進化へ」センター所長 内桶 博仁

【参加者の声】

○他の先生方の発表を聞くなかで、新たな発見や気づきがあり、今後の教育活動に参考にできる内容もあった。今後も子どもたちの未来のため、教員としての資質向上とより良い学校を目指して成長を続けていきたい。

○現状の枠組みの中でどう動くかではなく、より広い視野で考えた時にどういったビジョンを描けるか、柔軟な思考を持つと思うきっかけとなった。ゼロベースで考え、前例踏襲ではないものに挑戦するマインドを得られた。

○社会の変化に伴い、教育に求められることも変化している、それに対してどのような観点で具体的にどんな取り組みをしていくべきなのか、多くの先生方の発表を聞くことで、具体的なイメージを持つことができた。柔軟な発想を持ち考えていくことの大切さについて改めて考えることができた。

【教職教育課より】

第7日はこれまでの研修をもとに受講者一人ひとりが構想した「学校の責任者になった『私』が作りたい学校」についての研究発表を行いました。広い視野で学校教育の課題に目を向けることの重要性を認識するとともに、学校の未来について熟考を重ねたことで、多くの気づきや学びがあったのではないのでしょうか。また、7日間の研修を通して、学校の課題に自身がどう取り組むかという意識を高めました。今後も学校の中核を担うために、自己研鑽を積み、さらに成長することを期待しています。

◇3 持続可能な社会を創る!SDGs研修講座 第2日

【期日】令和7年1月30日（木）

【人数】42 人（小、中、高、特）

【内容】

＜講義・研究協議＞「学校と地域が連携したSDGs達成に向けた教育の在り方」東京都市大学大学院教授 佐藤 真久

＜実践発表＞「学校と地域が連携したSDGs達成に向けた教育の実践」常陸大宮市立大賀小学校教諭 高畠 みどり

＜研究協議＞「SDGsアイテムを活用したESD実践の共有」

＜演習＞「教室から世界を考えるオンラインスタディ・ツアー体験」認定NPO法人CFFジャパン 内海 研治、木村 実咲

【参加者の声】

○これからの子どもたちが生きていく「正解のない問いと共に生きる時代」に適応していける力を、子どもたちが学んでいけるようにしたい。「変わる、変える」のキーワードを忘れずに大切にしていきたい。

○実践発表を聞いて、児童がやってみたいと思える学びには、地域資源をうまく活用することがとても大事であることが分かった。いきなり新しいことを始めるのは大変だが、小さなことから実践してみたい。

○フィリピンの子どもたちとのオンライン交流を通して、教育の可能性や多様性について考える機会となった。生徒自身が社会や自然環境に目を向けていけるような学びを構想していきたい。

【教科教育課より】

本講座のテーマは、「地球規模で考えて、地域で行動する（Think globally, Act locally.）」です。第1日は、JICA筑波において、地球規模に目を向けて、SDGs達成に向けた世界各国の取組について学びました。第2日は、講義や演習を通して、生活の場である地域社会の中でのSDGs達成に向けた教育について考えを深め、明日からの子どもたちとの関わり方を見つめ直す、意義深い研修となりました。

◇4 教育相談（上級）研修講座 第3日

【期日】令和7年1月21日（火）

【人数】23 人

【内容】

＜研究協議＞「個別面接の実践記録を基にした検討」

【参加者の声】

○自身を見つめ直すことができた。良いところを継続し、意識してできる事を増やしていきたい。生徒、保護者だけでなく、教職員に対しても学んだ技法等を生かして、一人でも多くの人が幸せに過ごせるようにしたい。

○「聴く」ことの難しさや技法について振り返りができた。技法だけではなく、日頃からの関わりの中で生まれる信頼関係が何より大事であると改めて感じた。

【教育相談課より】

研修講座を通して、自分自身を見つめ直すとともに、日常の関りから生まれる信頼関係の大切さについて、改めて実感された方が多く見られました。これまでに学んだことを生かし、校内における教育相談の中心として、活躍していただくことを期待しています。

■2 実践家の魅力に迫る！～アクティブラーナーにインタビュー

◇日立市立滑川中学校 梶山 璃奈 教諭

（R5「中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座」、「音楽科授業づくり研修講座」、R6「我が国の伝統音楽研修講座」受講者）

梶山先生は、生徒が楽しみながら学びを深めることができる授業づくりを目指し、研修センターでの各種研修での学びを生かしながら日々授業改善に取り組まれています。今年度の「中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座」においては、これまでのご自身の授業づくりや生徒の課題をふまえ、題材構成や手立てをきめ細やかに工夫した創作の授業実践をご紹介します。受講者からは「授業実践発表を聞いて、自分自身が最終的に目指す生徒の姿が曖昧な授業を

してしまっていたことに気が付く機会になりました。」「授業を終えた生徒がどのような姿になってほしいか、ゴールを見据えた授業を展開していく必要があることを再認識することができました。」などの感想が寄せられました。

【実践者の振り返り】

○昨年度の「中堅教諭等〔前期〕資質向上研修講座」は、自分の授業づくりを改めて見つめ直すきっかけになりました。「分かっているけど実践できていなかったこと」に向き合い、改善できるように、様々な研修への参加や、他の先生の授業参観などに積極的に取り組んでいます。

○様々な研修で得た学びやアイデアを積極的に授業に取り入れ、生徒が音楽を学ぶ楽しさを感じられるだけでなく、資質・能力を育成できるように心がけています。そして、卒業後も生徒が生活や社会の中で音楽と豊かに関われるように、中学校3年間の学びのつながりを意識した授業づくりを大切にしています。

【今後に向けての抱負】

○今年度の「我が国の伝統音楽研修講座」で三味線演奏の基礎やメンテナンスについて学び、3学期には、三味線の授業を計画しています。三味線演奏の経験をとおり、生徒が和楽器や伝統音楽への親しみをもち、理解を深められるようにしたいです。

○研修を通して学ぶことが大好きなので、今後は、研修センターだけでなく校外や県外でのセミナーや研修会に積極的にも参加し、さらに授業力を向上させたいと考えています。

※日々の授業改善への思いや取組の様子がひしひしと伝わり、梶山先生の研修への意欲の高さを感じます。これからも、理想の授業を目指して、創意工夫あふれる授業づくりに取り組まれることを期待しています。

◇ かすみがうら市立霞ヶ浦中学校 小松崎 亮 教諭

小松崎先生は、文部科学省指定リーディング DX スクール(<https://leadingdxschool.mext.go.jp/>) 指定校・生成 AI パイロット校の研究主任として、子どもの「学びに向かう力」を引き出す授業改善に向け、3つのキーワード「課題提示の工夫による学習意欲の喚起」「ゆさぶりの発問」「経験の共有化」のもと、学校の中心的存在として、また他校や有識者との連携を積極的に推進しながら事業を牽引しておられます。

【実践者の振り返り】

<生成 AI の効果的な活用の実際>

○英語学習への興味関心を深めるため、授業の導入でペアによるスモールトークの際に生成 AI との対話を取り入れています。その結果、子どもたちは友人との対話においてより深みのある会話ができるようになりました。

○道徳では、思考力育成のための重要な要素として、中心発問に対して生成 AI の考えを聞き、その後、子どもたちが AI の回答の妥当性を検討することで、批判的思考力の育成を図っています。実際の授業内の様子から、意見交換が活発になり、多角的な視点で物事を捉え、道徳的判断力の育成に繋がっています。

<生成 AI 活用における校内への働きかけ及び成果と課題>

○先生方が、年齢や教科、学年を超えてよりよい生成 AI の活用方法を学び合う場面が、多く見られます。これからは、批判的思考力の育成、探究的な学びの促進、教科等横断的な学習、情報モラルやデジタル・シティズンシップ教育の育成を踏まえ、教科の本質と結びつけた活用を見出すことが重要な課題と考えています。

【今後に向けての抱負】

○生成 AI の教育活用については、先生方の意識が変わると授業改善につながることを、他校へも広げる働きかけをしたいと考えています。教科指導に限らず、課題解決学習や総合的な学習におけるキャリア教育へも新たな可能性として、AI にしかできないこと、人間にしかできないことを明確にし、探究心を深める学び、多角的な学習環境の創造を目指していきます。

※小松崎先生の「やってみよう!」という姿勢が、子供たちの主体性や探究心を引き出し、ワクワクしながら学ぶ魅力的な授業を生み出しています。小松崎先生を含めたかすみがうら市の取組は2月 28 日に実施される「[成果報告会](#)」で公表されます。貴重な機会ですので、ぜひ皆様も参加し、授業観をアップデートしてみませんか。お申込みはこちらです。



https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeSOJhM4nXAsk5BD1JsWXhUb8An1IsknjHNLROqb4iQY0w_Qw/viewform

■3 センター事業のご案内

▼I Online Ed Café

「第 36 回 Online Ed Café 木村泰子先生と語る『きょういく』」の動画を、当センターWeb ページで公開しております。今回も、苦野一徳先生をメンバーにお迎えし、第 34 回で見出した「安心して過ごすとは、『自分まるごと』が脅かされずに、(自他ともに)受け入れられていること」から、さらに問いを深め、本質観取を行いました。そして、安心して過ごせる学校とはどんな学校なのか、深く問い返しました。ぜひご覧ください。

[URL] <https://www.youtube.com/watch?v=4yFYj5KzrEI>

■4 推挽録(編集に寄せて) 教科教育課 主査 佐藤 知光

▽前教育長を中心に、那珂市で退職した校長等がボランティアで那珂市内の小学 4 年生から 6 年生を対象に「Kids College Naka」という「子ども大学」を開設している。そこでは毎年、興味・関心のある児童が数十名集まり、歴史や医学、天気、植物、化石、天体などの専門家を講師に招いて、話を聞いたり体験をしたりして楽しく学びを深めている。

▽この講座で出会った先生方の話を聞くと、例えば、天体観測の講師の方は、小学校 2 年生の時に親戚の方が自作の天体望遠鏡をつくり、いっしょに天体観測をしたのがきっかけで、天体に興味をもったのだという。そしてもし天体に出合っていなかったら、今の自分はないとも言われていた。

▽植物の講師の方は、小学校 6 年生の時の担任が、裏山に植物採集に誘ってくれたのが始まりで、休みには八溝山などにも進んで同行するようになったそうだ。そして理科の高校教員となり、ご高齢になった今でも植物採集をライフワークとしている。

▽天気の講師である気象予報士の方は、小学校 4 年生の夏休み自由研究で毎日の天気や気温をノートに記録し始め、それをきっかけに天気の変化をみているうちに、明日の天気はどうなるのだろうと考えるようになり、予報士になる夢をもったそうだ。そして NHK 水戸放送局でお天気の魅力について伝え続けていた。

▽蛇足で付け加えさせていただくと、私が教員を目指したきっかけは、小学校 3 年生のときの担任との出会いであった。厳しい方であったが私を認め様々なことを任せてくれた。その後、教職に就き実際に子供たちに教える中で、教えることの楽しさや喜びを知り、それがやりがいとなり、教育を通して私自身も学びを深めることができたことは実に幸運なことであった。

▽このように、夢や目標をもつきっかけは、身近な生活の中のいたるところにあるのではないかと考えている。これからも子供たち一人一人の夢や希望を育み、その実現の懸け橋となるべく、子供たちに少しでもきっかけを与え続けられたいと考えている。